

## ⑫公開特許公報 (A)

昭54—121542

⑪Int. Cl.<sup>2</sup>  
E 06 B 7/086識別記号 ⑬日本分類  
89(2) D 222庁内整理番号 ⑭公開 昭和54年(1979)9月20日  
7635—2E発明の数 1  
審査請求 有

(全 3 頁)

## ⑮ルーバ雨戸

門真市大字門真1048番地 松下  
電工株式会社内⑯特 願 昭53—30114  
⑰出 願 昭53(1978)3月15日  
⑱発 明 者 渡辺開増⑲出 願 人 松下電工株式会社  
門真市大字門真1048番地  
⑳代 理 人 弁理士 石田長七

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

ルーバ雨戸

## 2. 特許請求の範囲

(1) 縦棧の内部に上下動自在に配置した連結棒と、連結棒の上下動をルーバ片の回転運動に変換する偏心カムと、連結棒より縦棧底面の操作窓を通して外方に突出し、連結棒より引き出し自在で且つ連結棒の上下動に連動する操作レバーと、操作レバーの一部をばね力にて操作窓周縁の縦棧外面に圧接させるためのロック手段とを具備することを特徴とするルーバ雨戸。

## 8. 発明の詳細な説明

本発明は、縦棧(1)の内部に上下動自在に配置した連結棒(2)と、連結棒(2)の上下動をルーバ片(3)の回転運動に変換する偏心カム(4)と、連結棒(2)より縦棧(1)底面の操作窓(5)を通して外方に突出し、連結棒(2)より引き出し自在で且つ連結棒(2)の上下動に連動する操作レバー(6)と、操作レバー(6)の一部

をばね力にて操作窓(5)周縁の縦棧(1)外面に圧接させるためのロック手段(7)とを具備することを特徴とするルーバ雨戸に係るものであり、その目的とするところはルーバ片に加わる風などの外力によつて勝手にルーバ片が開閉するのを防止したルーバ雨戸を提供するにある。

本発明を以下実施例に基いて詳述する。ルーバ雨戸は第1図に示すように複数枚のルーバ片(3)を縦棧(1)と両側の縦框(4)との間に上下に亘つて連設され、更に上下の両横框(4)の略中央には横棧(4)が設けられてルーバ部を上下の2つに仕切つてあり、下横框(4)に取着した戸車(4)にて雨戸枠(図示せず)内を走行するものである。ルーバ片(3)は両端に夫々長手方向全長に亘つて相反する方向に係止縁(4)と被係止縁(4)を有する断面略Z字状に形成され、中央には長手方向全長に亘る軸受(4)が形成しており、一端に挿入するピン(図示せず)のような軸手段にて縦框(4)に軸支され、他端に偏心カム(4)の回転軸(4)を連結して偏心カム(4)の回転運動をルーバ片(3)の開閉運動に変換するわけであり、第4図に示すようにルーバ部が閉じた時は上

(1)

(2)

段のルーバ片(3)の係止縁(4)に下段のルーバ片(3)の被係止縁(4)が係止するように各ルーバ片(3)が上下に連設してあつて、各ルーバ片(3)が連動して図中の矢印方向に回転した時にルーバ部が開いて換気が行なわれるものである。一方縦桟(1)は前後に2分割されたコ字状の枠材(1a)(1b)を突き合して角筒状に成形されており、各枠材(1a)(1b)の両側片端縁に上下方向に亘つて一定間隔で設けた半円孔(30a)(30b)が合致して軸孔(4)が形成され、この軸孔(4)に偏心カム(4)の回転軸(4)が遊合するものである。連結棒(2)は断面コ字状の長尺体に成形され、縦桟(1)内に上下動自在に配置してあり、両側片端縁の端縁に長手方向に亘つて複数の切欠(4)が一定間隔で隔設してあつて、この切欠(4)に偏心カム(4)の偏心軸(4)が嵌入し、連結棒(2)の上下動をこの偏心カム(4)によつてルーバ片(3)の回転運動に変換するわけである。連結棒(2)へのルーバ片(3)の連結は、枠材(1a)(1b)同士を連結する前に室外側に位置する枠材(1a)の各半円孔(30a)に偏心カム(4)の回転軸(4)を嵌入し、この枠材(1a)

(3)

は操作レバー(6)をコイルスプリング(6)のばね力に抗して手前に引きながら上下動させるようになっていて、操作レバー(6)を離すと操作レバー(6)はその位置で縦桟(1)にロックされ、ルーバ片(3)を所定の開き角度に保持するものである。尚、操作レバー(6)と操作窓(5)周縁の相接する部分に例えば銅鍍形状の凹凸をつけておけば、より一層操作レバー(6)のロックが確実となるものである。

本発明は以上のように、連結棒より引き出し自在で且つ連結棒の上下動に連動する操作レバーの一部をばね力にて操作窓周縁の縦桟の外面に圧接するロック手段を有しているので、操作レバーによる連結棒の上下動からのルーバ片の回転運動への一方方向のみの伝達が達成でき、逆方向の力の伝達をなくすることができるものであり、その結果ルーバ片の開閉は操作レバーだけで伝え、ルーバ片に加わる風などの外力によつてルーバ片が勝手に開閉するのを防止でき、ルーバ片を常に所定の開閉位置に保持できるという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

(5)

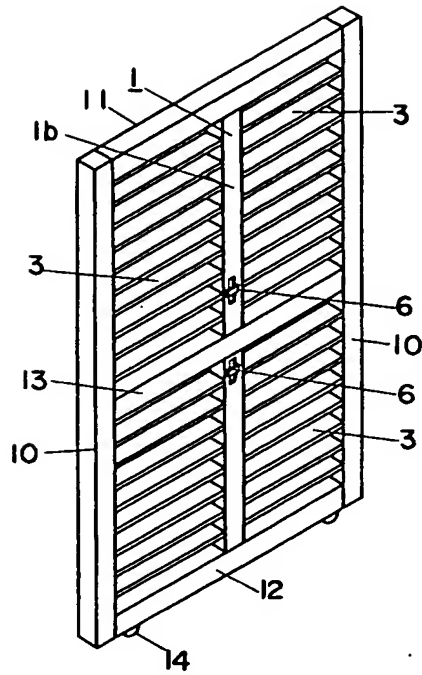
に連結棒(2)を入れて連結棒(2)の各切欠(4)に偏心カム(4)の偏心軸(4)を嵌入し、その後他方の室内側に面する枠材(1b)をその側片先端の突起(4)を室外側に位置する枠材(1a)側片の凹所(4)に嵌合して縦桟(1)を形成するものである。ロック手段(7)は連結棒(2)の底片の適所に設けた透孔(4)に遊嵌した軸棒(4)と、連結棒(2)内に突出する軸棒(4)先端のストップリング(4)と連結棒(2)の内底面との間の軸棒(4)に嵌めたコイルスプリング(4)及び縦桟(1)の室内に面する部分の適所に穿設した操作窓(5)より外方に突出する軸棒(4)の先端より両側へ一体に延出する操作レバー(6)とで構成され、操作窓(5)より突出する操作レバー(6)を上下動させることにより連結棒(2)を上下に変位させ、上述のようにルーバ片(3)を回転させるものであり、操作レバー(6)の両端は第3図に示すように前記コイルスプリング(4)の作用によつて通常は操作窓(5)側周縁の縦桟(1)外面に圧接して連結棒(2)の上下動を規制し、ルーバ片(3)に加わる外力によつてルーバ片(3)が勝手に回転するのを防ぐものであり、ルーバ片(3)を回転する場合

(4)

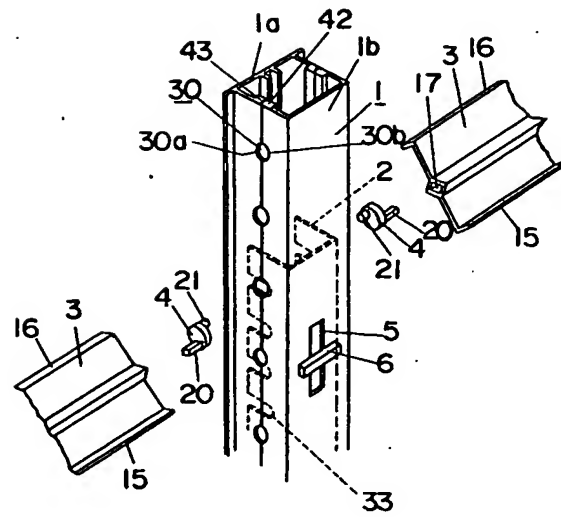
第1図は本発明の一実施例を示す斜視図、第2図は同上の部分分解斜視図、第3図は同上の縦桟の断面図、第4図は同上のルーバ片の作用説明図であり、(1)は縦桟、(2)は連結棒、(3)はルーバ片、(4)は偏心カム、(5)は操作窓、(6)は操作レバー、(7)はロック手段である。

代理人 弁理士 石 田 長 七

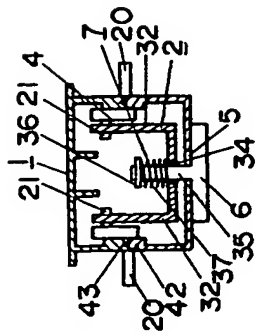
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

